

平成29年度第2回 函館市企業局経営懇話会 会議録

【開催日時】 平成30年3月20日（火） 午後2時

【開催場所】 函館市企業局庁舎4階大会議室（アクロス十字街）

【次第】

- 1 開 会
- 2 委員紹介
- 3 報告事項
  - (1) 平成30年度企業局各会計予算の概要について
  - (2) 函館市上下水道経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンの進行管理について
- 4 その他
- 5 閉 会

【出欠状況】

■委員（出席12名）

（○は出席，敬称略）

| 所属団体           | 氏名    | 出欠 | 所属団体          | 氏名    | 出欠 |
|----------------|-------|----|---------------|-------|----|
| 公立はこだて未来大学     | 木村 健一 | ○  | 函館市南茅部地域審議会   | 熊谷 儀一 | —  |
| 財団法人函館地域産業振興財団 | 三浦 汀介 | ○  | 函館商工会議所       | 竹内 正幸 | ○  |
| 北海道税理士会函館支部    | 川田 博仁 | ○  | 函館水産連合協議会     | 吉村健太郎 | ○  |
| 北海道電力株式会社函館支店  | 名畑 優  | —  | 函館地区バス協会      | 渡部 浩典 | ○  |
| 函館市社会福祉協議会     | 佐藤 秀臣 | ○  | 函館湯の川温泉旅館協同組合 | 大桃 誠  | ○  |
| 函館市町会連合会       | 深瀬 晃一 | ○  | 一般公募          | 小泉 正勝 | ○  |
| 函館消費者協会        | 森元 浩  | ○  | 一般公募          | 山本 秀治 | ○  |
| 連合北海道函館地区連合会   | 樋口 信一 | —  |               |       |    |

■事務局（出席21名）

川越企業局長

- ・管理部 藤田部長，松浦次長，細越総務課長，高木経営企画課長，田中経理課長，島村料金課長，藤谷収納・滞納整理担当課長，川井東部営業所長
- ・上下水道部 加保部長，金野次長，米田管路整備室長，濱坂業務課長，船山計画・管路担当課長，加地維持管理担当課長，丹内温泉等担当課長，川村浄水課長，鈴木終末処理場長
- ・交通部 川村部長，高坂次長，岩田事業課長

1 開 会

2 委員紹介 (新規就任委員の紹介)

3 報告事項 (1) 平成30年度企業局各会計予算の概要について

〈資料説明 (田中経理課長)〉

――― 質疑応答 ―――

深瀬委員 資料1-1について、質問をさせていただきます。資本的収支の支出で、建設改良費が5億3,500万円圧縮されています。圧縮したのは、色んな努力があったと思うのですが、その中で、例えば老朽化したインフラ整備の先送り、これはなかなか私どもには見えにくいところで、いわゆる本来は出さなければいけない、掛けなければいけないものを掛けない。それで色んな形で市民生活に支障を来すということは、他都市ではどうもあるようでございます。函館市においては、この建設改良費の5億3,500万円の圧縮というのは、老朽化したインフラ整備が遅れていない、あるいは遅れているのかというところをお答え願いたい。老朽化したものの整備は遅れてはいないですね。

船山課長 遅れておりません。5億3,500万円というのは、国、北海道の工事に伴う、大きな配水本管あるいは導水管の移設工事を見ているものでございますが、国のほうの工事に伴い一緒に実施する予定のもので、その工事が先送りされているということからスライドされているものであります。ご質問がございました老朽化の工事については、順調に進んでおります。

深瀬委員 函館は、これから人口減ということで、水道事業もおそらく縮小していかざるを得ないだろうというなかで、当年度末企業債残高の172億4,800万円というのは、他都市と比べて、あるいは一般的な企業、これからの先行きから見て、安心していい数字なのでしょうか。

高木課長 経営ビジョンのなかにも記載があるのですが、類似団体と比較しますと若干高いですが、ほぼ同じ程度なのでその辺はご安心いただければというふうに思います。

深瀬委員 これは他都市の例ですけれども、例えば、こういった広域事業というものを民間に委託する。例えば、企業局ではバスの部分もそうしたように、水道の部分もそういった事業体もあるというところを一応話をして終わらせていただきます。

川田委員 交通事業のほうでお聞きします。資料1-3の業務の予定量の年間総輸送人員が対前年度比5.8%減ということでございます。前回の委員会的时候には、増加傾向にあるというふうに報告をいただいておりますが、平成30年度になりまして、突然5.8%減というふうによまれた根拠をお聞かせいただけますか。

岩田課長 新幹線開業を契機として、少しずつ少子化であったり、高齢化であったり、沿線人口が移っている部分で、新幹線開業以降、緩やかですけれども、少しずつ下がるというような計画でございます。

小泉委員 資料1-1, 1-2, 1-3で全部同じですが業務の予定量のなかで、資料1-1では水道年間総配水量, 水道一日平均給水量。資料1-2では年間総排水量, 一日平均排水量。資料1-3では年間走行キロメートル, 年間総輸送人員。おのおの減ですが、このもとになっているのは、函館市の人口の減を想定されているとか、あるいは経済が不活発になるとか、そのもとになっているのは何でしょうか。

高木課長 それぞれ経営ビジョンを策定する際も、市の人口の計画と合わせて作っておりますので、大きな要素としては人口減ということになっております。

三浦会長 それでは、他に意見等ございませんので、これで本件は終了させていただきたいと思えます。

## (2) 函館市上下水道経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンの進行管理について

〈資料説明（高木経営企画課長）〉

――― 質疑応答 ―――

質疑なし

## 4 その他

三浦会長 委員の皆様から、何かございますでしょうか。

深瀬委員 私もこれがたぶん最後になるかもしれないというところなのですが、特に水道事業について、お願いですけれども、私が大学の頃、東京にいた頃、東京の水というのはおいしくなかったんですね。今、東京では、随分色んな努力をして、おいしい水ということにこだわっています。東京は水道水をペットボトルに入れて、そんなものも作っています。函館は観光というのが一番の大きいところです。そうしたときに函館の水はおいしいと昔結構言われていましたけれども、また、できれば日本で一番おいしい函館の水というのを取り戻してほしいなと思います。東京で、残留塩素消費抑制検討委員会というのがありまして、そこで、随分色んな苦勞をしたというところの資料がありますので、私も最後になろうかと思えますから、これを置いてまいりますので、ぜひ検討して、例えば、これは前から何度も言っておりますけれども、受水槽の問題ですとか、あるいは、老朽化した水道管をステンレスに換えているとか、そういったところまで、おいしい水にこだわっているようでございます。ぜひ函館のおいしい水にこだわって、これからいってほしいなと思います。

三浦会長 他にどなたかご意見等ございますでしょうか。

<意見なし>

三浦会長 それでは私の進行はここまでとさせていただきます。進行を事務局にお返ししたいと思います。

高木課長 三浦会長，ありがとうございます。ここで，交通部のほうから，昨年3月から運用開始いたしました交通系ICカード「イカすニモカ」にかかわりまして，報告させていただきます。

岩田課長 昨年3月25日にサービスを開始させていただきました，交通系ICカードの導入後の現在までの状況について，若干ではございますけれども，ご報告させていただきます。

サービス開始から現在まで，システム等にも，特に大きなトラブルもなく順調に稼働しているところでございます。

ICカード，ICASニモカの販売枚数は，函館バス株式会社様と合わせまして，本年1月末現在でございますけれども約2万8千枚の販売実績でございます。

導入後の利用実績は，車内売上の約3割程度となっておりまして，その内訳といたしまして，ICASニモカの利用は全国交通系ICカードのうち，約4割でございます。そのほかはスイカやパスモなどの関東圏のカードの利用が多くなっているところでございまして，ICカードの利用者も市民利用につきましては日を追うごとにご利用いただく方が増えている状況でございます。また，観光でお出でいただくお客様にも，市電でICカードが使えることも，だいぶ周知をされてきましたことからICカード利用も好調に推移しているところでございます。

ICカードの導入以降，お客様からは乗降がスピーディになったことや，やはり整理券いらずでストレスフリーになったとのお声や乗り継ぎ割引を利用することで利便性が向上したとのお声をいただいているところでございます。

一方，運行面でございますけれども，ご利用いただいているお客様同様，乗降がスムーズになったことで，定時運行の確保にも繋がっているところでございます。

本年4月からは，定期券ICカードがいよいよスタートし，また，高齢者交通料金助成制度や障がい者割引制度も現在の磁気カードからICカードに移行いたします。このことから，今後，一層ICカードへ移行していくものと予想しているところであります。

なお，現在までお使いいただいております，磁気カード（イカすカード）でございますけれども，それと紙製の回数券。これらにつきましては，この3月31日をもって販売を終了させていただきますけれども，使用につきましては，2020年（平成32年）3月31日まで引き続きご使用いただくことができます。また，この間使用できなかった磁気カードや紙製回数券につきましては2023年（平成35年）3月31日まで払い戻しをすることとしているところでございます。

以上，簡単ですけれども，交通系ICカード「イカすニモカ」の導入状況についてのご報告とさせていただきます。

高木課長 ただいまの報告に関して質問等はございませんでしょうか。

小泉委員 私もイカすニモカを作ったが，カードに自分の名前を刻印する。名前を打ち込むことによって，何かメリットはあるのか。どういうことなのか教えてください。

岩田課長 イカすニモカの記名式のカードのことだと思います。  
名前はスターイカすニモカという言い方をしますけれども，お名前を登録していただくことで，例えば，落としてしまったとか，どこかに忘れてきたとか，あるいは，何かICのトラブルでカードが読めなくなったなどで，無記名ですと落としてしまうと，残念ながら，ご本人様のお手元に戻ることはほぼないですけれども，お名前を記載していただくことで，お手続きをいただくと，そのカードの中に残っている残高だとかが，手数料は掛かりますけれども，そのまま返金されるというようなものです。

ぜひお持ちになるのであれば、お名前を登録していただくことをお勧めいたします。

深瀬委員 高齢者に対しての公的な交通機関のサポート。まあ費用的な面ですね。それ仕組みが変わりました。そもそもが高齢者が外出しやすいように、どこかに行きやすいようにということが、その主たる目的でした。もし今回やり方を変えて、高齢者の利用が著しく減りましたという場合は、この仕組みを見直すという余地はあるのでしょうか。それとも高齢者は公的交通機関を使わなくなったけれども、市の財政にとっていいから、そのままいこうというのでしょうか。見直しがあるのか、どうなのか、もし、その著しく利用が減った場合ですね、そのことをお答えいただきたいと思います。

川村部長 交通料金助成、お年寄りと障がい者の助成は、基本的には、一般会計といいますか、保健福祉部というところで行っている事業でございます。残念ながら、交通事業者として、その事業を継続するとか、今後やめるとか、拡大するとかというようなコメントは残念ながら、この場ではできませんので、ご了承していただきたいというふうに思います。

深瀬委員 ありがとうございます。ということは、情報提供はしていただけるわけですね。今まで高齢者の利用がこのぐらいありましたけれども、この新しい仕組みになって、このくらいになりましたという情報提供をしていただけるのでしょうか。

川村部長 はい。その情報につきましては、おそらく保健福祉部、市のほうから、決算見込みなり、決算なりという形で情報開示されるというふうに思っております。

## 5 閉会

高木課長 以上で、本日の日程は全て終了となりますが、本日の会議録につきましては、この後、事務局にて案を作成し、後日、各委員に郵送させていただきます。ご確認いただく形で作成してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、最後になりますが、委員の皆様におかれましては、任期が平成30年5月31日まででございますが、現在のところ、任期中の会議の開催予定がございますので、今回が最後の開催となる見込みでございます。

よろしければ、会長から一言、お願いしたいのですが。

三浦会長 それでは、私から一言ご挨拶させていただきます。現在の委員の皆様には、この約2年間になりますが、献身的に会議へ参加していただき、私も非常に助けていただきました。会長職を無事に努めることができたのも、ひとえに委員の皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。皆様、本当にありがとうございました。

高木課長 三浦会長、そして両副会長をはじめ、委員の皆様には大変お世話になりました。閉会にあたりまして、企業局長からご挨拶をさせていただきたいと思います。

川越局長 それでは一言ご挨拶をさせていただきます。委員の皆様におかれましては、一昨年、平成28年6月から、私どもの企業局の経営懇話会の委員として、企業局の事業運営に関しまして、さまざま視点から、貴重なご意見を賜りましたことにつきまして、心よりお礼を申し上げます。本当にどうもありがとうございます。

この2年間で申し上げますと、新たな取り組みといたしまして、赤川の高区浄水場で小水力発電施設を稼働いたしました。また、ただいま報告申し上げますけれども、交通系ICカード「イカすニモカ」も導入をいたしました。そして、今後の安定した

事業経営のための上下水道事業ならびに交通事業の経営ビジョンを策定をしたところでございます。

この経営ビジョンの策定にあたりましては、大変お忙しい中、素案の段階から、大変貴重なご意見をいただきましたこと、重ねてお礼を申し上げます。

今後、人口減少に伴う水需要の減少、市電の利用の減少など課題があるわけであり、また、同時に施設の老朽化に伴う対応など諸課題があるわけでもありますけれども、こうした中におきましても、将来にわたって安全で安心していただけるサービスを安定的に提供していくことが我々の使命であると考えておりまして、経営ビジョンをベースにして、各種対策に取り組み、健全な経営に努めてまいりたいと考えているところでございます。

皆様におかれましては、今後におきましても、さまざまなお立場から、企業局の事業経営に関しまして、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます、お礼のご挨拶とさせていただきます。どうも、本当にありがとうございました。

高木課長

それでは、以上をもちまして、平成29年度第2回函館市企業局経営懇話会を閉会いたします。皆様、ありがとうございました。